

ぎふ経済レポート



令和7年10月分
岐阜県商工労働部

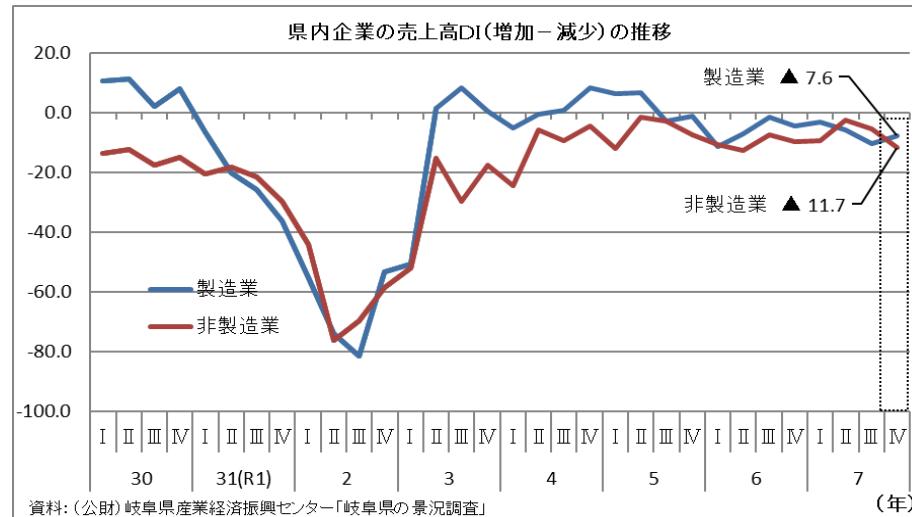
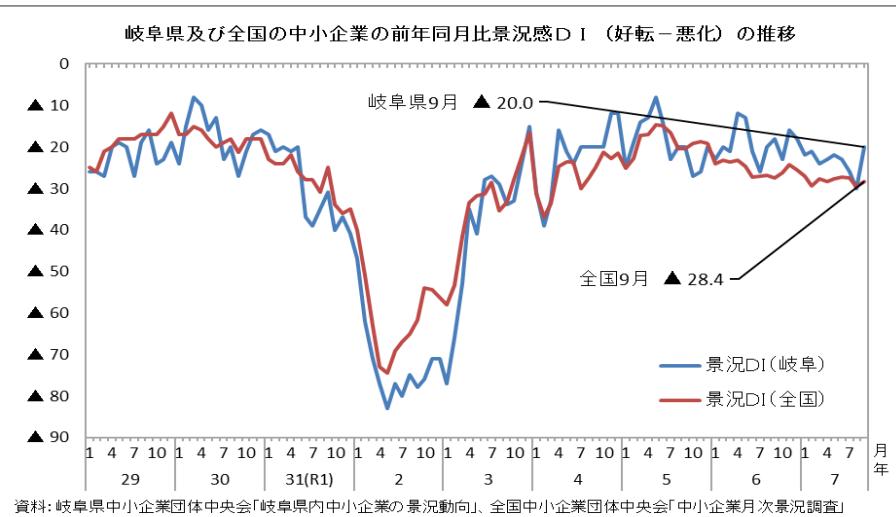
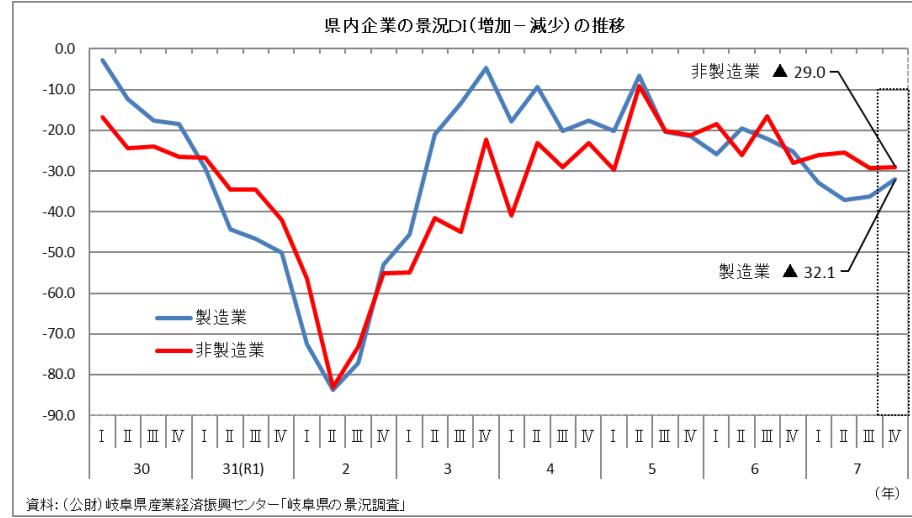
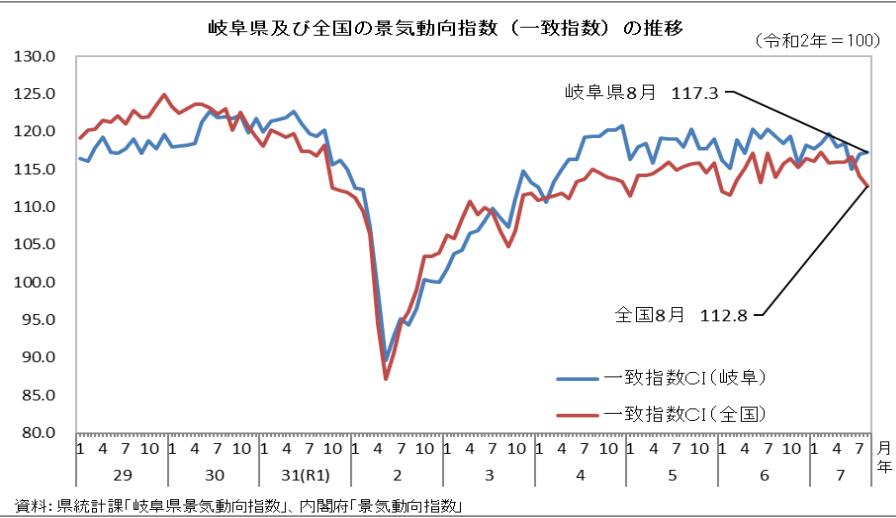
※企業等へのヒアリングは10月27日～29日を中心に実施し、11月25日時点で作成。

景氣動向

○8月の景気動向指数(一致指数)は、117.3で前月比0.3ポイント上昇となった。

○9月の県内中小企業の景況感は、▲20.0で前月比10.0ポイント上昇となった。

○10-12月期の景況DI見通しは、製造業で前期比4.2ポイント、非製造業で同0.2ポイント上昇となった。売上高DI見通しは、製造業で前期比▲7.6ポイント、非製造業で同▲11.7ポイントとなった。

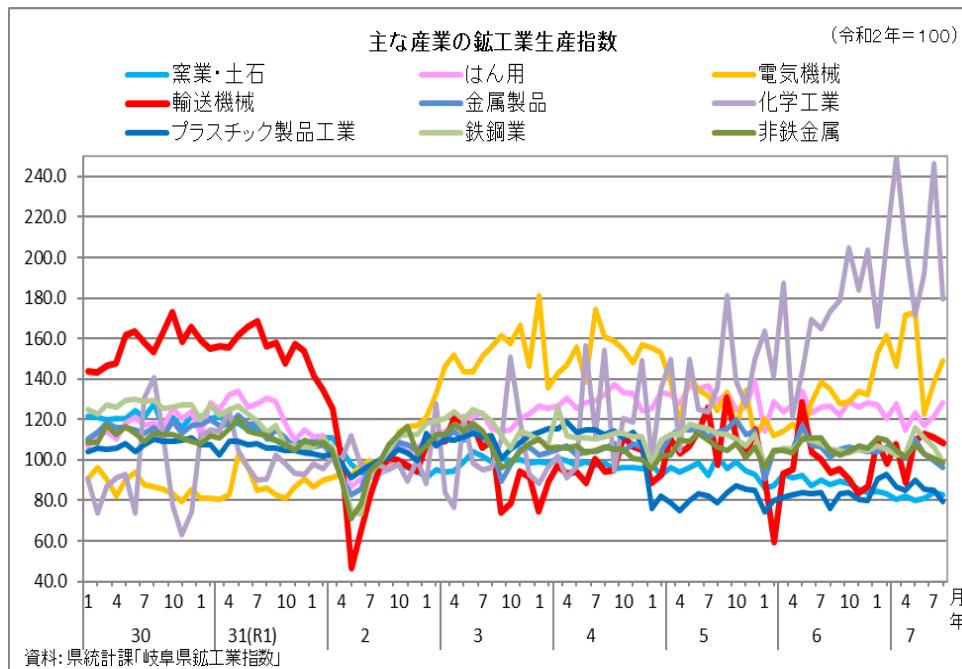
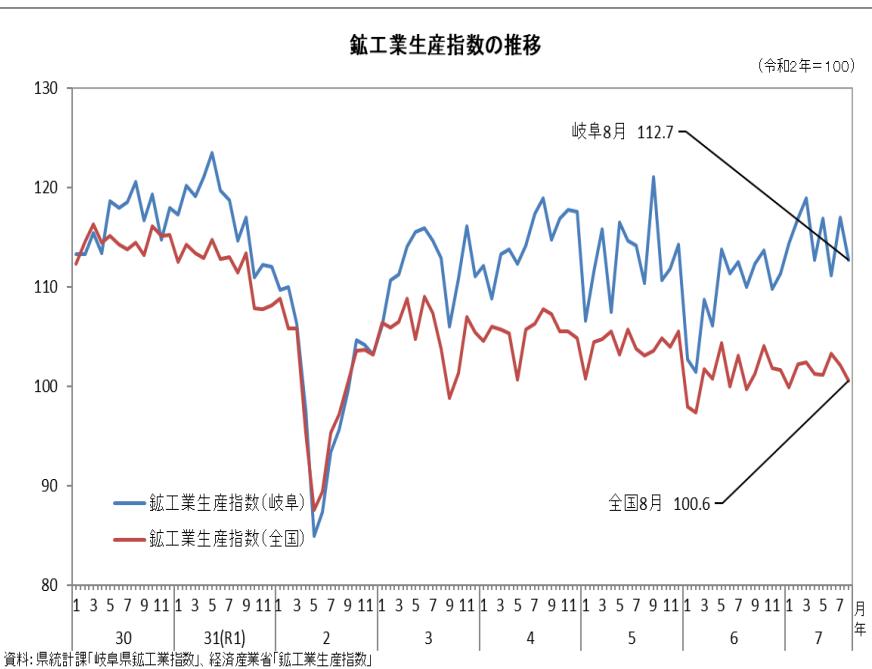


製造業

○8月の県内鉱工業生産指数(季節調整済)は、112.7で前月比▲3.7%と2ヶ月ぶりに前年同月を下回った。

○8月の全国の鉱工業生産指数(季節調整済)は、100.6で前月比▲1.5%と2ヶ月連続で前年同月を下回った。

○8月の主な産業の指数は、電気機械で前月比7.9%、はん用で同5.4%上昇となった。一方で、化学工業で同▲27.2%、プラスチック製品工業で同▲6.5%、鉄鋼業で同▲6.4%、金属製品で同▲3.2%、非鉄金属で同▲2.5%、輸送機械で同▲2.4%、窯業・土石で同▲1.3%となった。



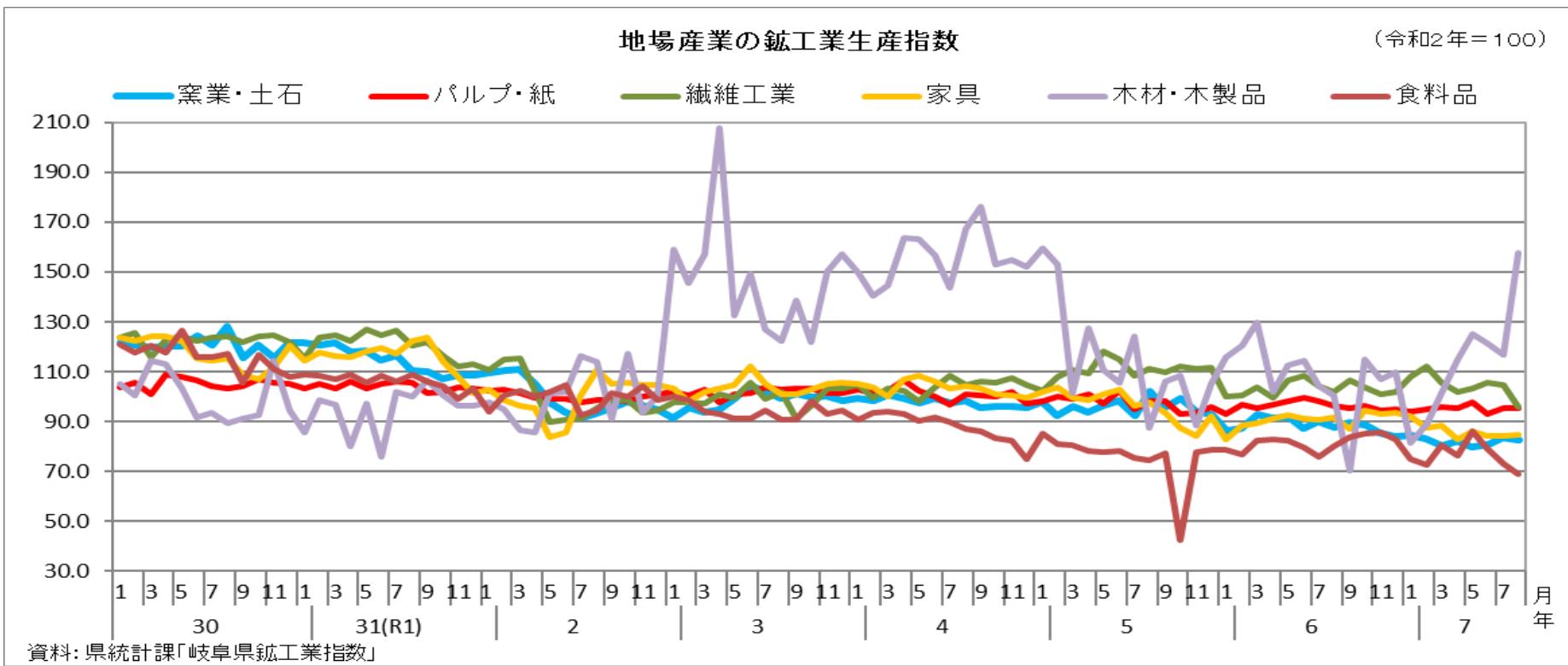
現場の動き

(※原油・原材料高騰、海外情勢等に伴う経済変動の影響はP6にも掲載)

- ◆ 中国向けの出荷について、スポットでIT関連部品の受注があり、一時的に好転した。(輸送用機械器具)
- ◆ EVユニット部品の提案が立ち消え、新たにガソリン車ユニット部品の提案を受けている。(輸送用機械器具)
- ◆ 自動車メーカーへの出荷以外にも市販製品の売れ行きが好調。(輸送用機械器具)
- ◆ EVが停滞しているため、ハイブリッドや従来型車種の生産などに向けて経営資源を集中している。(電気機械器具)

製造業－2

○8月の地場産業(刃物を除く)の鉱工業生産指数は、木材・木製品で前月比35.1%、家具で同0.5%、パルプ・紙で0.1%上昇した一方で、繊維工業で同▲8.6%、食料品で同▲6.1%、窯業・土石で同▲1.3%となった。



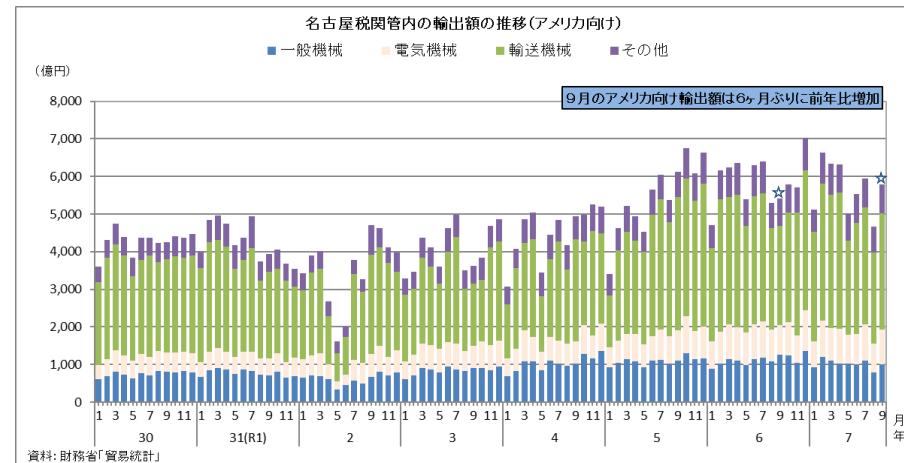
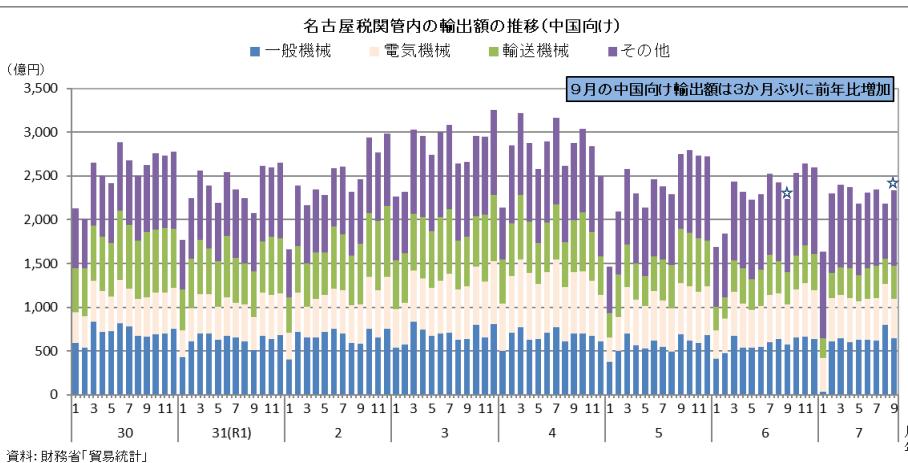
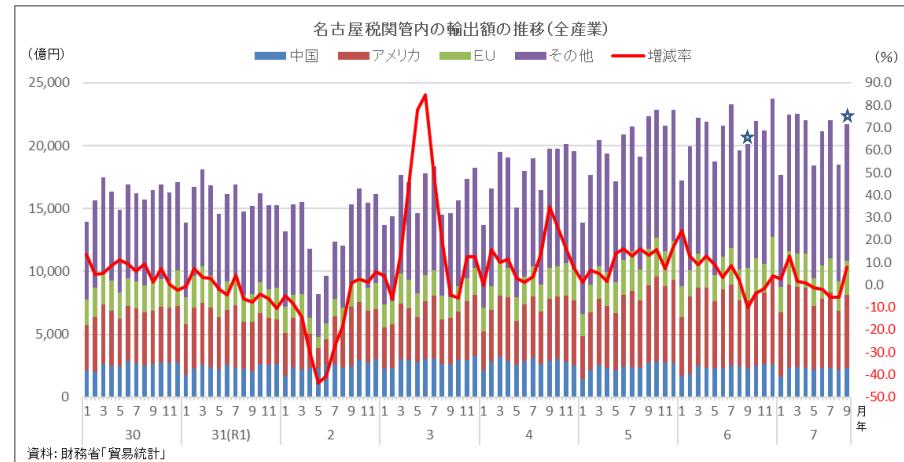
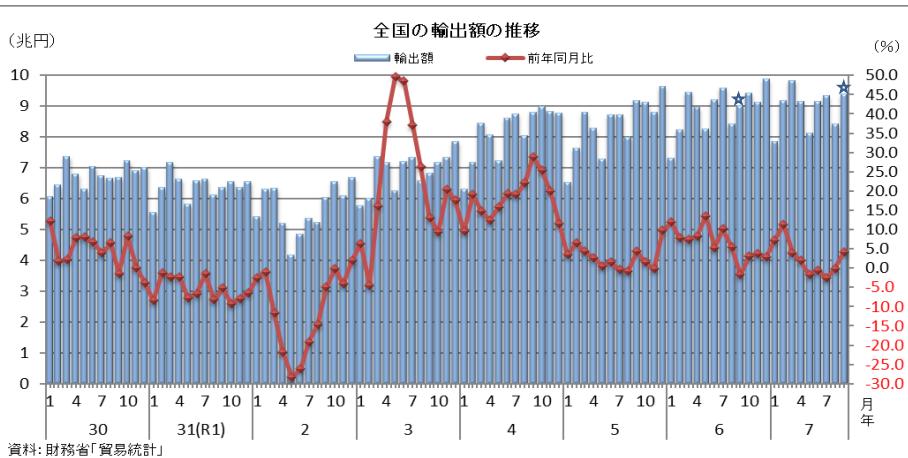
現場の動き

(※原油・原材料高騰、海外情勢等に伴う経済変動の影響はP6にも掲載)

- ◆ 新商品の包丁が好調であり、昨年と比較して売上は1割程度上昇している。(刃物)
- ◆ コンクリートや鉄骨は建築に必須の資材であるが、タイルは化粧品的な位置づけで必須ではなく、建築資材の高騰によりタイルの発注が減少。景況感は低調が続いている。(陶磁器)
- ◆ 仕入れ先のメーカーの倒産や廃業が多く、廃盤の商品の代わりの品を探すのに苦労している。(紙)
- ◆ 消費意欲は低いと認識しており、業界全体で景況はよくない。(木工)

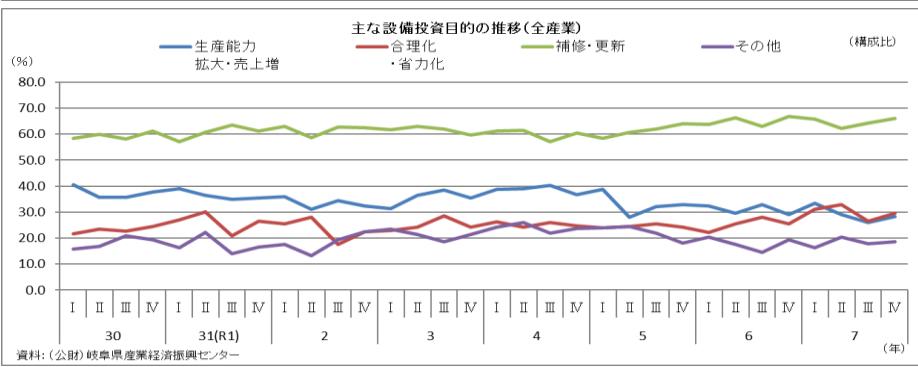
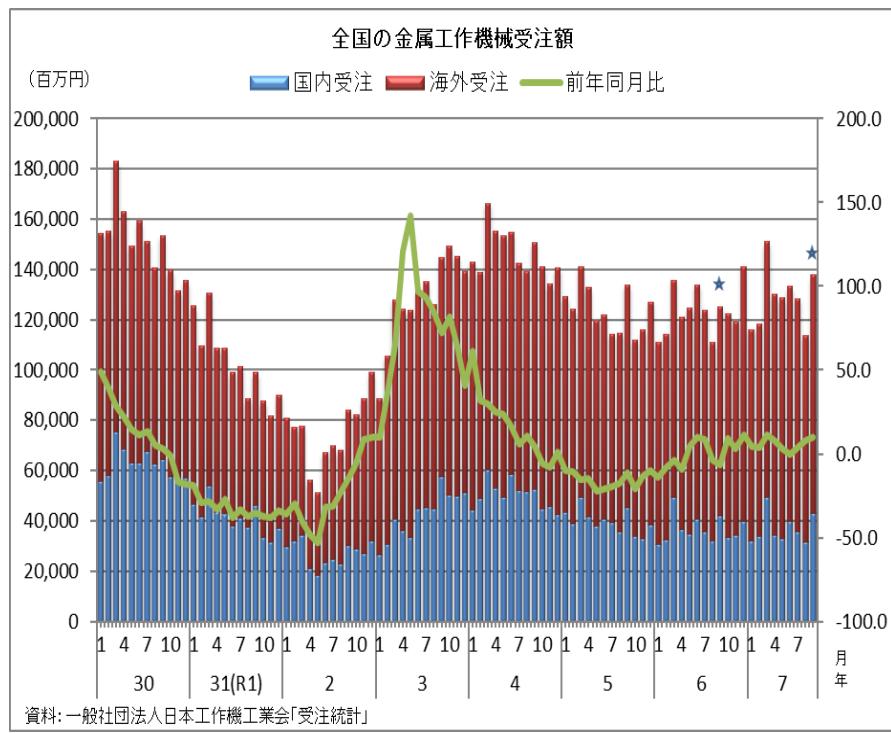
輸出(名古屋税関管内)

- 9月の輸出額(全国)は、9兆4, 132億円で前年同月4. 2%増加となった。
- 9月の輸出額(名古屋税関内)は、2兆1, 728億円で前年同月比8. 1%増加となり、5ヶ月ぶりに前年同月を上回った。
- 中国向けは、全体で前年同月比4. 3%増加となった。その内、一般機械で同13. 7%、輸送機械で同2. 2%増加した一方で、電気機械で同▲2. 3%となった。
- アメリカ向けは、全体で前年同月比6. 8%増加となった。その内、輸送機械で同17. 8%、電気機械で同15. 4%増加した一方で、一般機械で同▲20. 2%となった。



設備投資

- 10-12月期の設備投資実施見通しは前期比▲2.4ポイント、設備投資意欲DI見通しは同0.4ポイント上昇となった。設備投資実施見通しの目的別では、「合理化・省力化」で前期比3.0ポイント、「生産能力拡大・売上増」で同2.4ポイント、「補修・更新」で同1.8ポイント上昇となった。
- 9月の全国の金属工作機械受注額は、全体では前年同月比10.0%増加と3ヶ月連続で前年を上回った。内訳は海外受注は同13.9%増加と12ヶ月連続で前年同月を上回り、国内受注は同2.2%増加と6ヶ月ぶりに前年同月を上回った。



現場の動き

- ◆ 観光客のニーズに応えるため、既存の設備を新しいものに入れ替えるなど、宿泊業で活発。(金融機関)
- ◆ 取引先の増産情報の収集を継続し、関連する設備投資は時期を合わせて行う予定。(輸送用機械)
- ◆ 来期は投資規模を大幅に抑制するとともに、これまで受注に対し専用ライン化を進めてきたが、いろいろな受注に対応できる汎用ライン化に切り替えを検討。(輸送用機械器具)

為替・原油・原材料価格の動向に伴う経済変動の影響について

- ◆ 運搬業者からの値上げ要請があつたため、今後は販売先に運賃の値上げを要請する。(輸送用機械器具)
- ◆ 為替、燃料費ともにここの大きな変化はないが、高止まりで安定といった感覚。(輸送用機械器具)
- ◆ 主要原材料の価格が昨年比で約1割上昇しており、原材料費の高騰が収益構造に影響を与えている状況。(繊維・アパレル)

米国による関税措置について

- ◆ 追加関税適用後も売上、出荷量とも増加。大手自動車メーカーの生産計画に修正などの情報はなく、現在のところ影響はない。(輸送用機械器具)
- ◆ 影響がないとまでは言い切れないが、米国関税の影響が直接の原因となる事象はおきていない。(輸送用機械器具)
- ◆ 税率が具体的になつたことで回復傾向にある。本格的な回復は来年の上半期と推察する。(生産用機械器具)
- ◆ 一時期に比べかなりトーンダウンした印象。影響が出ているところもあるとは思うが、関税措置のために資金繰りの相談に来るということはない。(金融機関)

日中関係の悪化による影響について

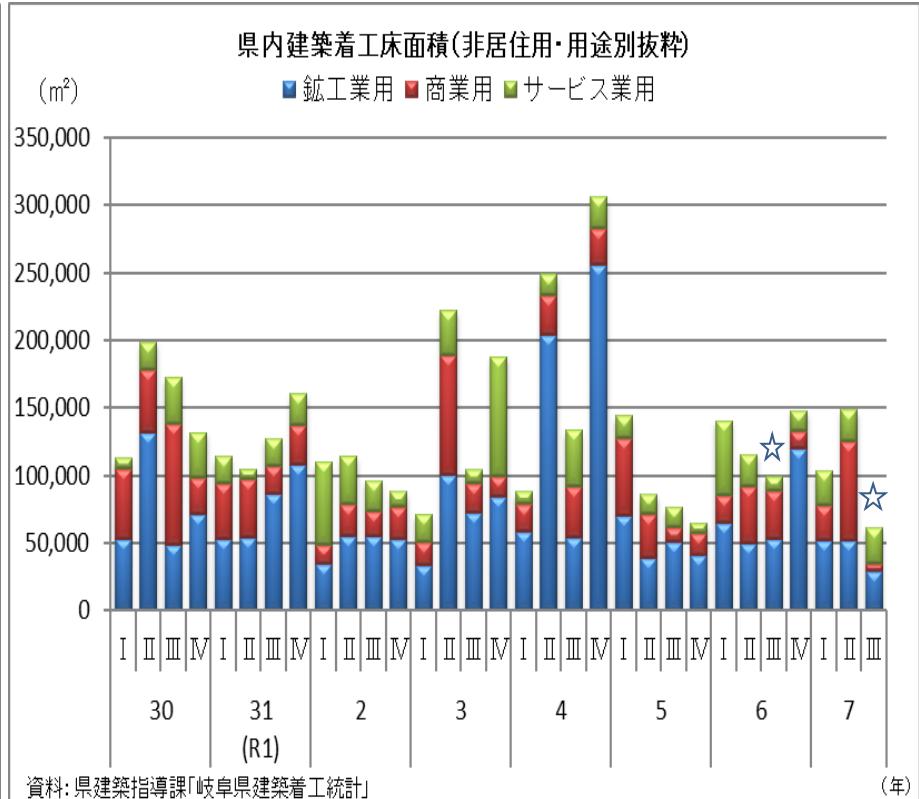
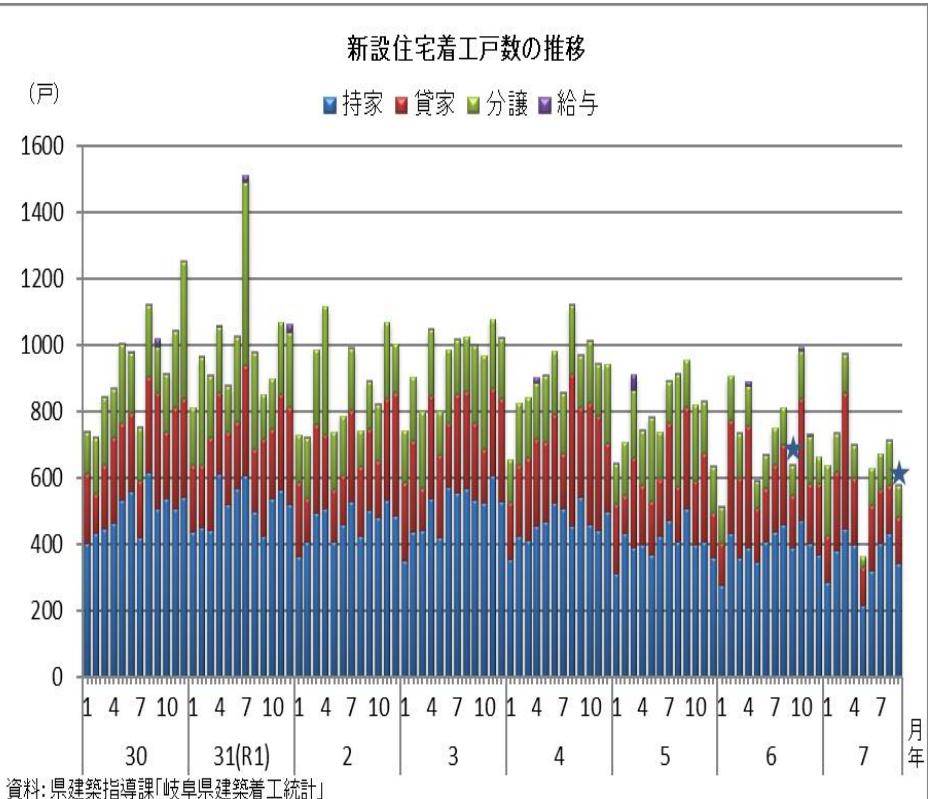
- ◆ 現状様子見。事業活動において影響が出ているとは聞いていない。(金融機関)
- ◆ 日本から材料を輸入し中国で製造、ローカル企業向けに販売する企業において、日本からの材料調達が出来なくなる可能性を見越し、ローカル企業より大量受注が特需になった先もある。(金融機関)

住宅・建築投資

○9月の住宅着工戸数は、前年同月比▲9.7%と6ヶ月連続で減少。

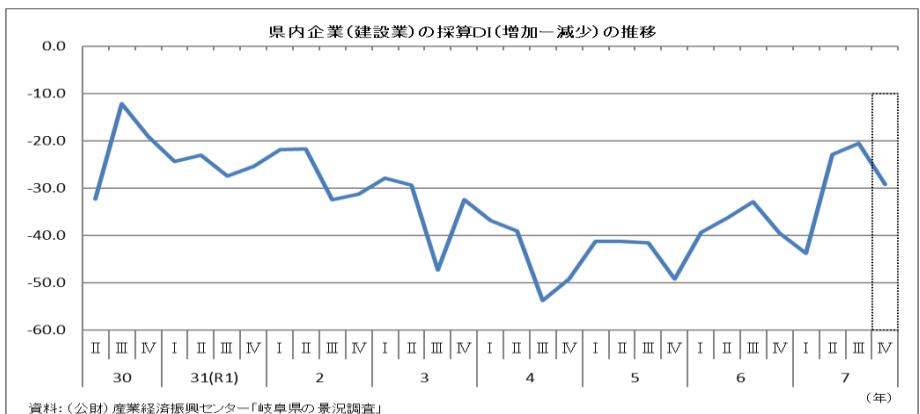
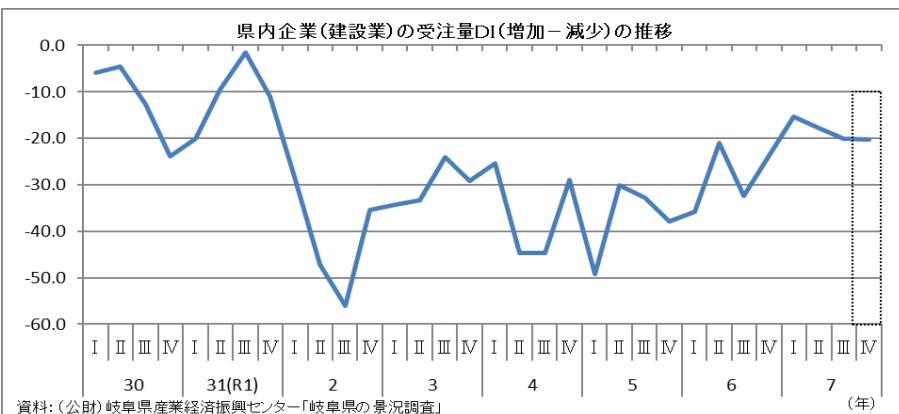
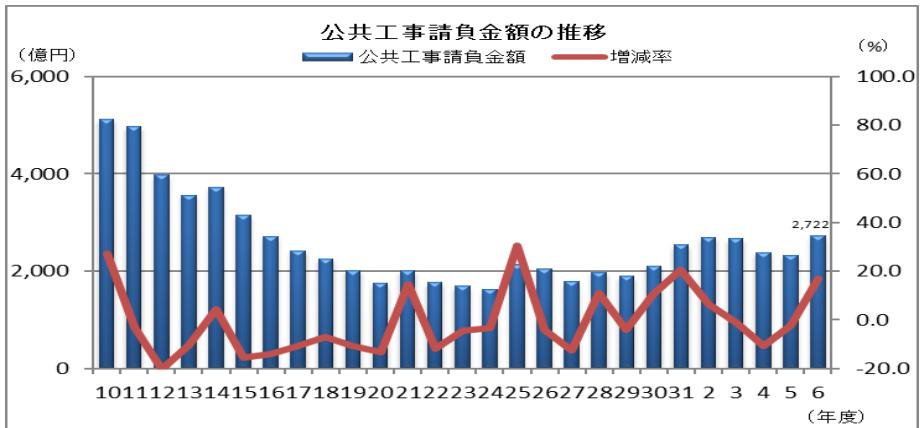
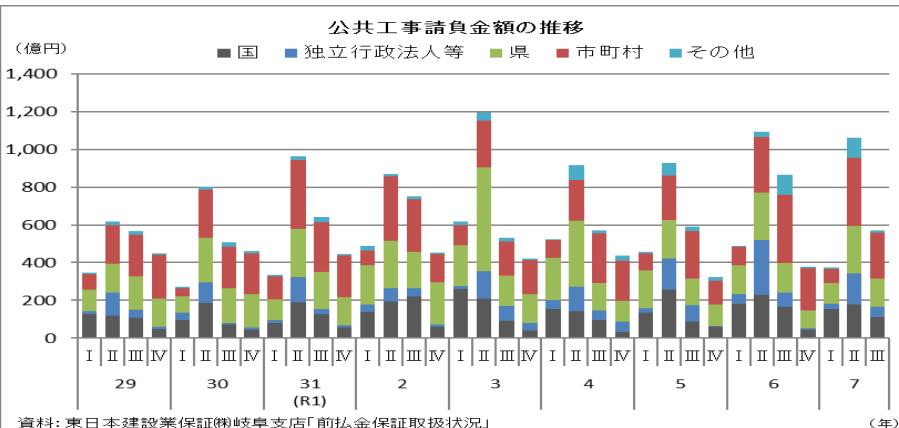
○分譲で前年同月比8.8%増加した一方で、貸家で同▲14.6%、持家で同▲11.8%となった。

○7-9月期の非居住用の建築着工床面積は、サービス業用で前年同期比143.7%上昇、商業用で同▲4.9%、鉱工業用で同▲44.6%となり、全体で同▲38.7%となった。



建設工事

- 7-9月期の発注者別の公共工事請負金額は、国で前年同期比▲32.6%、独立行政法人等で同▲25.0%、県で同▲7.9%となり、全体で同▲32.8%となった。
- 県内建設業の10-12月期の受注量DI見通しは前期比▲0.3ポイントとなり、同採算DI見通しは同▲0.5ポイントとなった。



現場の動き

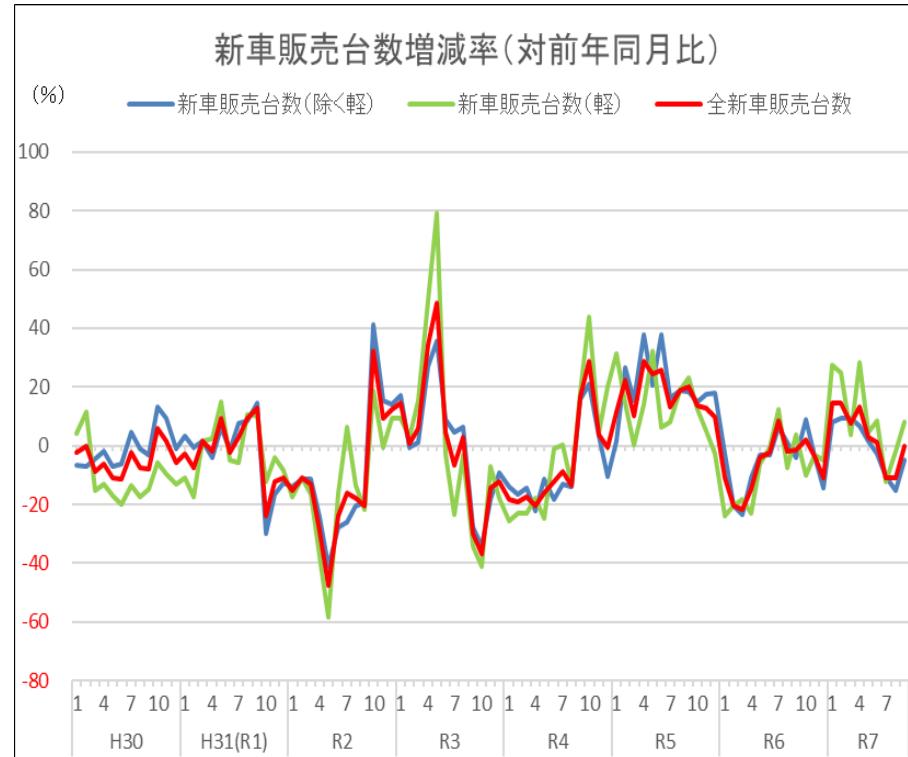
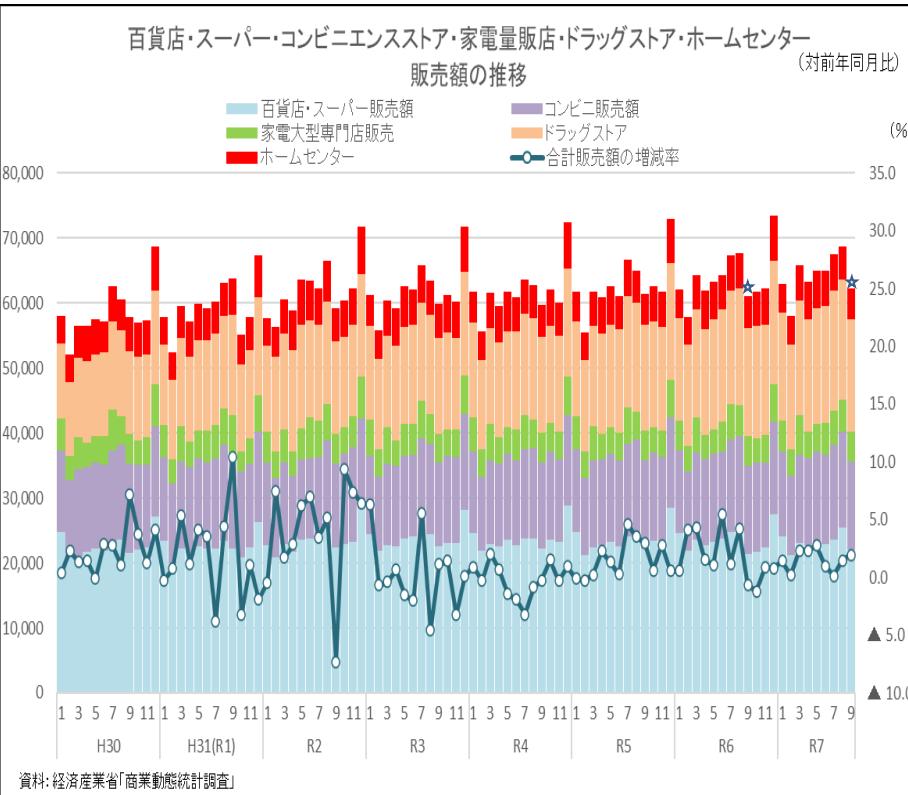
- ◆ 物価上昇が止まらないことに加え、公共工事の減少または遅延が影響し、売上は前年比の80%程度に減少。
- ◆ 民間工事では単価スライドが認められることがほとんどないため、物価上昇に対応できない。

(以上、建設)

個人消費(流通・小売)

○9月はドラッグストアで前年同月比3.6%、百貨店・スーパーで同3.2%、家電大型専門店で同1.6%上昇した一方で、ホームセンターで同▲3.7%、コンビニで同▲0.1%。全体では1ヶ月連続となる1.9%の上昇となった。

○9月の新車販売台数(除く軽)は、前年同月比▲4.9%と4ヶ月連続で前年同月を下回った。軽自動車は同8.1%増加と3ヶ月ぶりに前年同月を上回った。合算では同▲0.2%と、前年同月を3ヶ月連続で下回った。



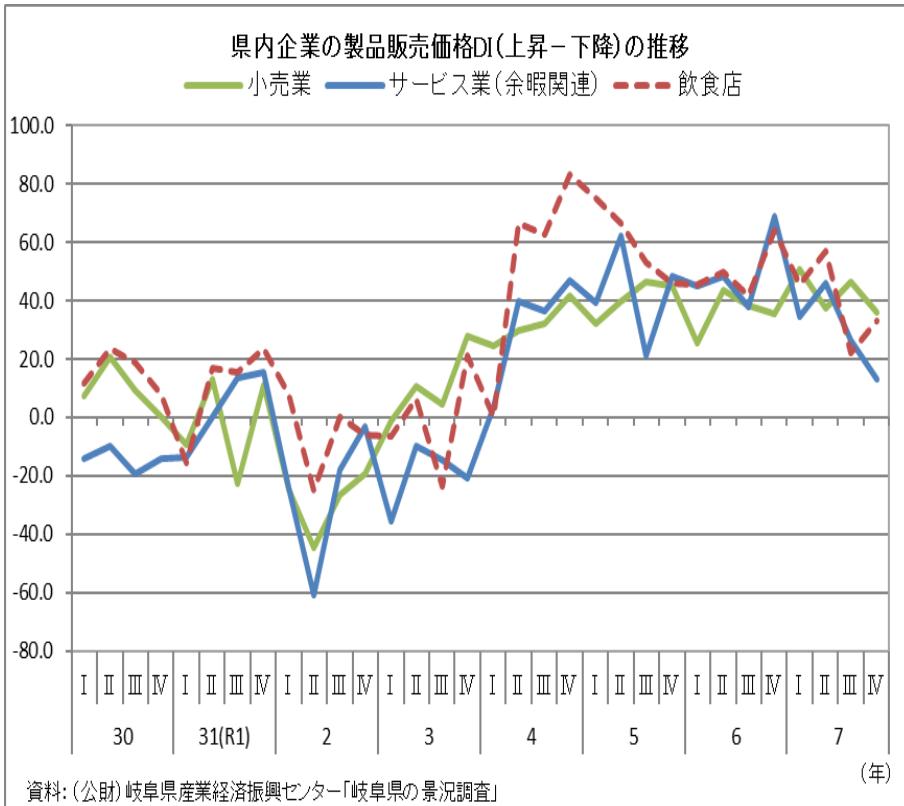
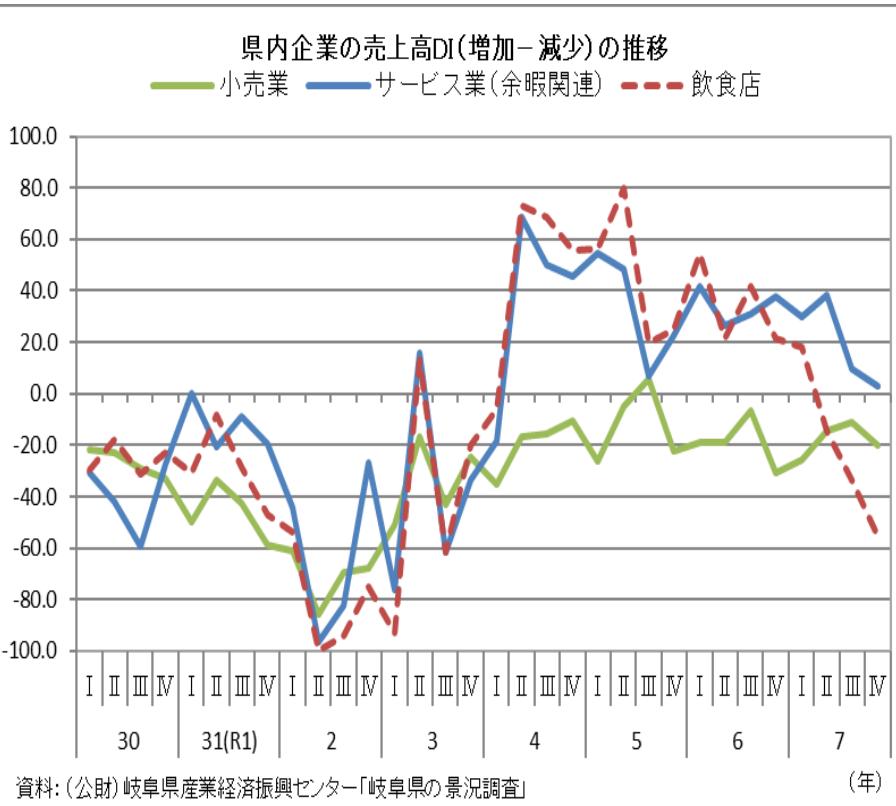
現場の動き

- ◆ シネコンの好調継続に加えて、各販促施策やイベントの連続実施により売上・客数共に大幅伸長。
- ◆ 店舗入替により客数が伸びており、年内の客数は過去最高になる見込み。

(以上、県内商業施設)

個人消費(流通・小売)－2

- 10－12月期の売上高DI見通しは、飲食店で前期比▲22.2%、小売業で同▲8.9ポイント、サービス業(余暇関連)で同▲6.5ポイントとなった。
- 同じく販売価格DI見通しは、飲食店で前期比11.1ポイント上昇した一方で、サービス業(余暇関連)で同▲13.7ポイント、小売業で同▲10.5ポイントとなった。



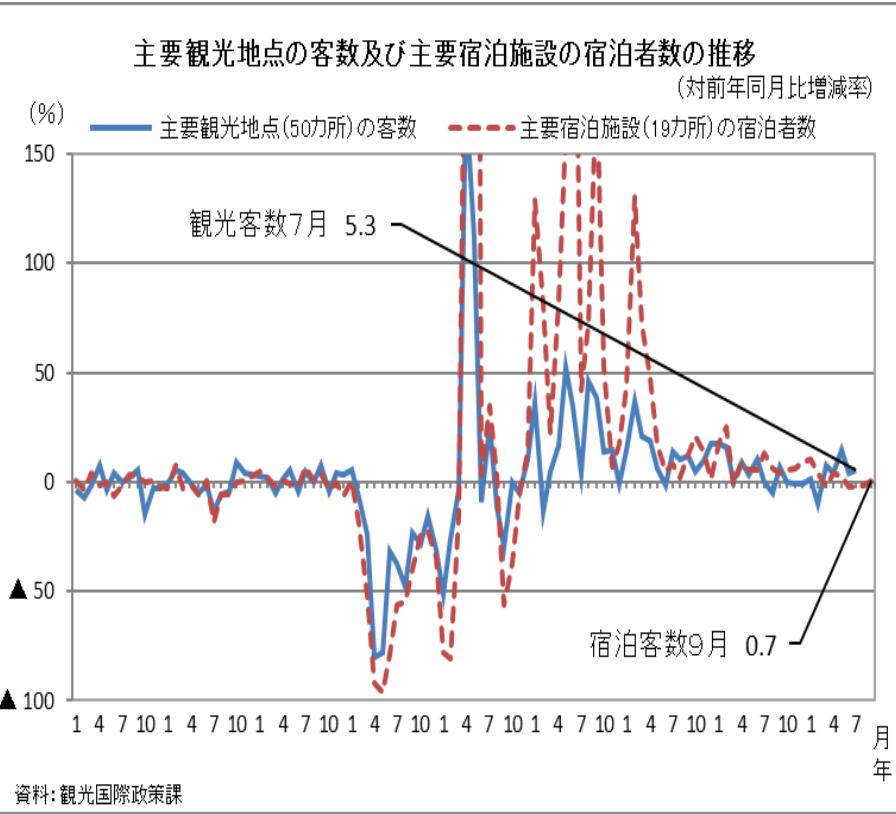
現場の動き

- ◆ 季節商品をこの秋に値上げしたが、やはり値上げしたものが大きく売上を落とす傾向が顕著に出たため、今後の値上げがしにくい。(大垣市商店街)
- ◆ 転嫁が難しいほど重なる値上げ。最近ではよく売れる商品がコストが合わず製造終了するケースまで出てきた。(高山市商店街)

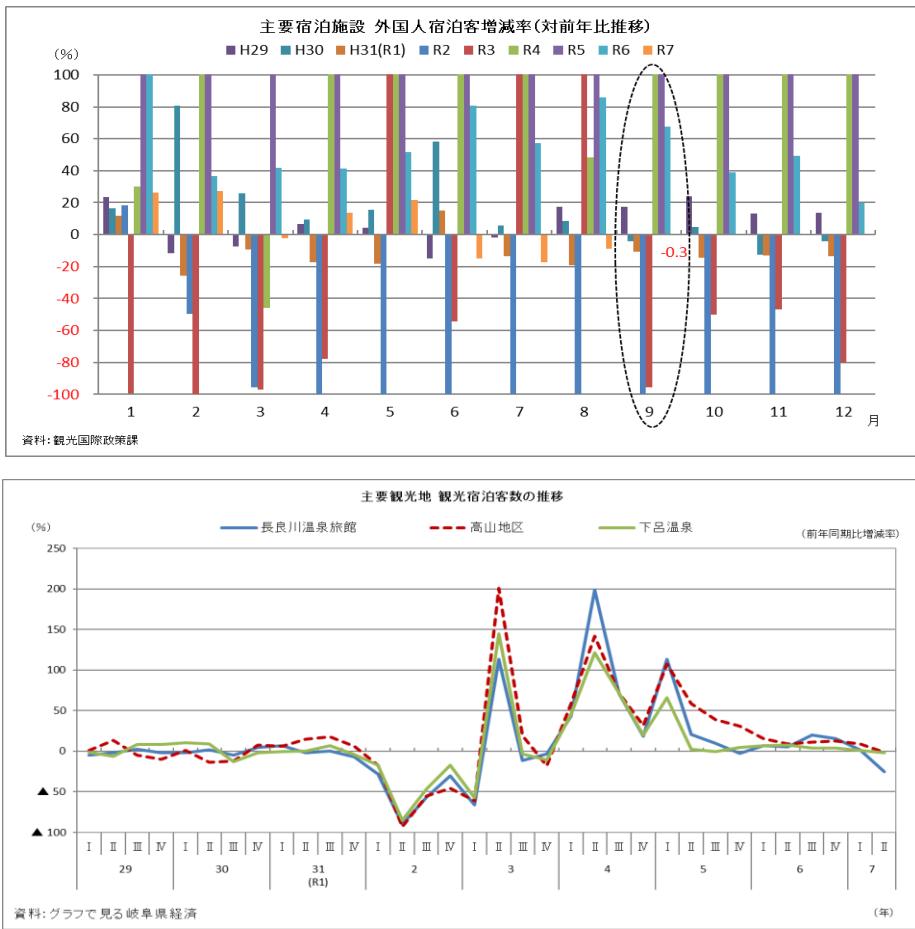
観光

○主要宿泊施設における9月の宿泊者数は、前年同月比0.7%増、令和元年同月比では、9.2%減となっている。

※主要観光地における9月の観光客数については、集計中。



○9月の主要宿泊施設における外国人宿泊者数は、コロナ前の令和元年同月比では、84.0%増となっている。

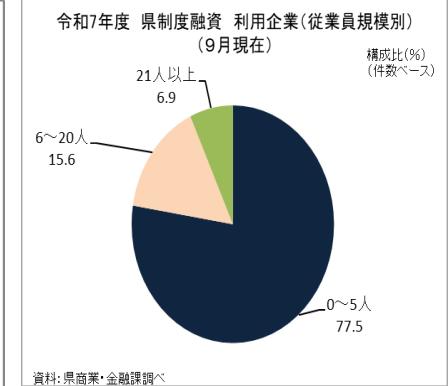
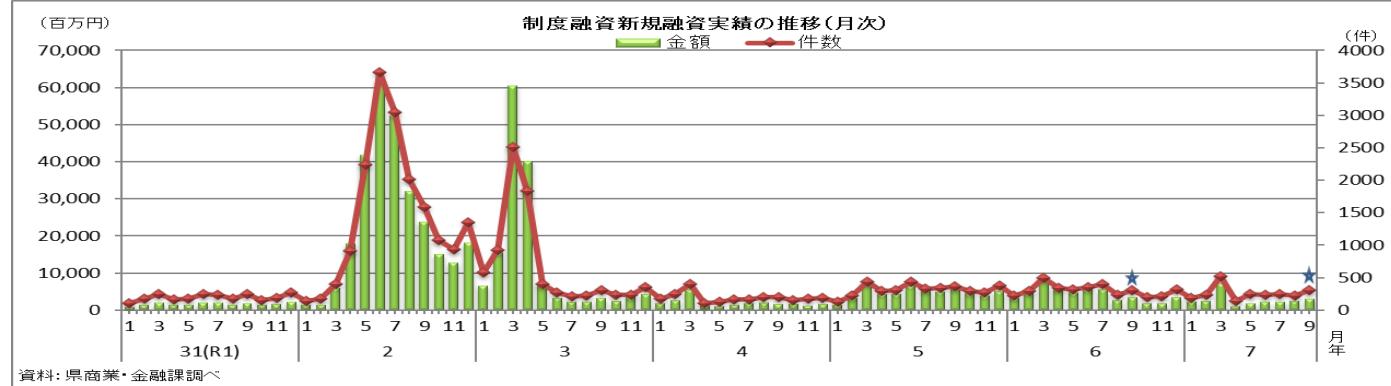
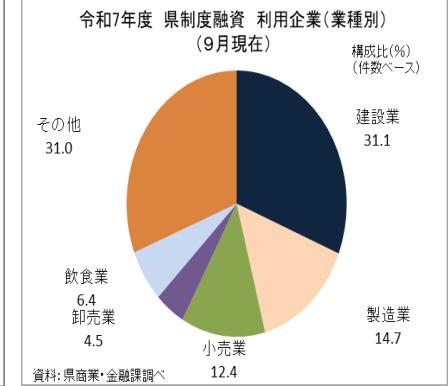


現場の動き

- ◆個人客や小グループが中心で、団体客の入込が不調。(高山市、下呂市)
- ◆人材不足が深刻化しており、日本人の人材確保が困難。(高山市、下呂市の宿泊施設)
- ◆原材料等の物価や仕入れ単価の高騰が続いている。(岐阜市、高山市、下呂市の宿泊施設)

資金繰り

- 9月の岐阜県貸出金残高は、3兆5, 967億円で前年同月比0. 1%増加し、41ヶ月連続で増加。
- 9月の制度融資実績は、金額が2, 997百万円で前年同月比▲15. 7%と14カ月連続で減少、件数は309件で同▲0. 3%となった。
- 制度融資利用企業の従業員規模別は、5人以下の事業所が全体の77. 5%を占めている。



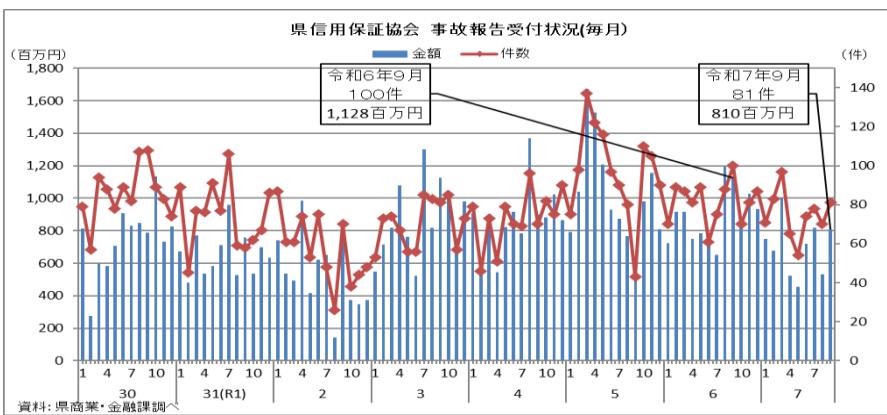
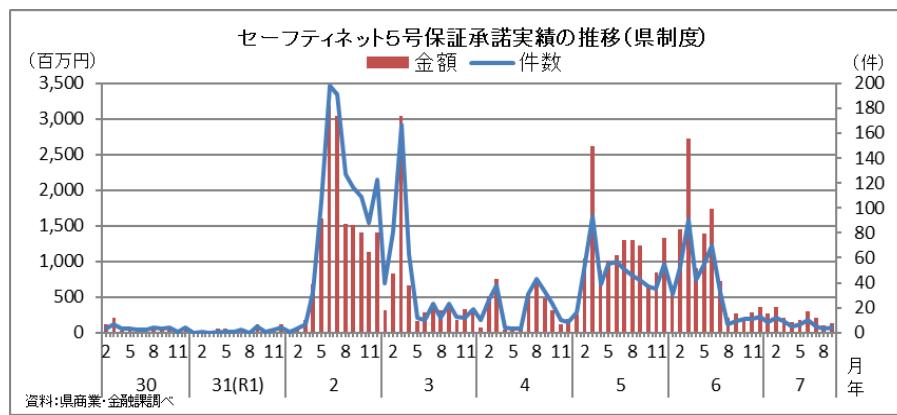
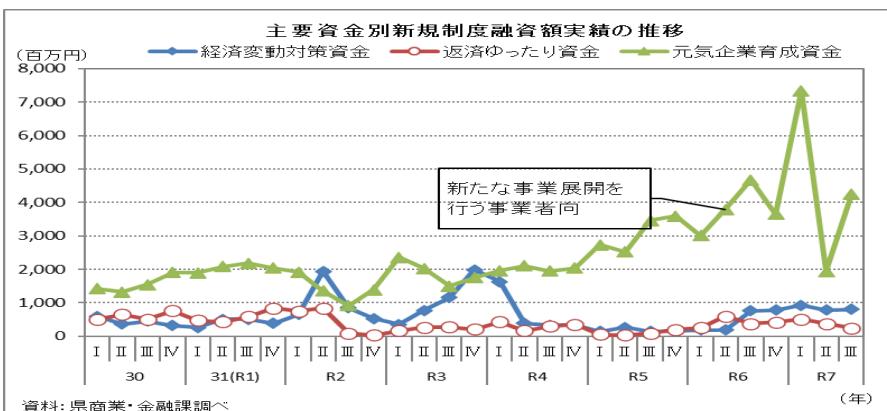
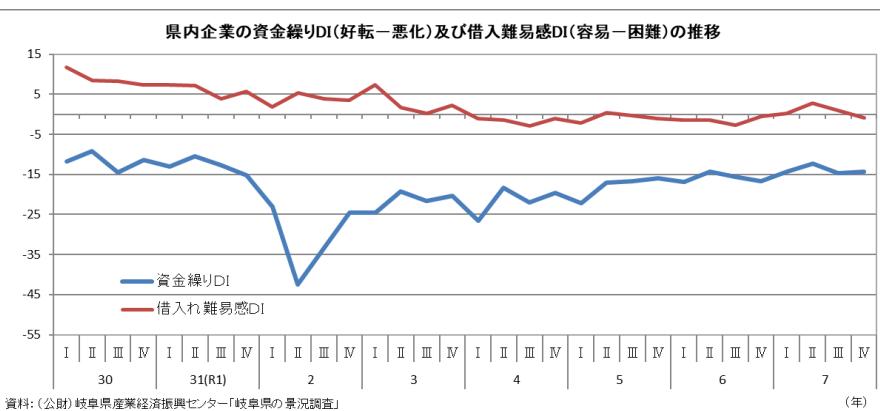
現場の動き

- ◆ 資金需要は賃上げによる人件費の高騰、物価高等の影響を受け、業種問わず運転資金のニーズが高い。
- ◆ 金利上昇局面であり、今後も上昇していくことは変わらず、あとは引き上げのタイミングの問題だと思っている。
- ◆ 引き続き政策金利の動向を注視していく。

(以上、金融機関)

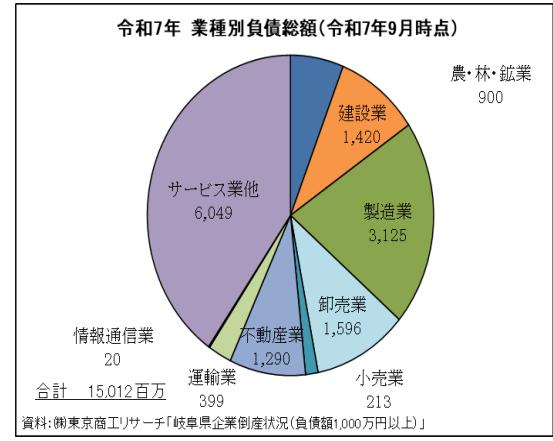
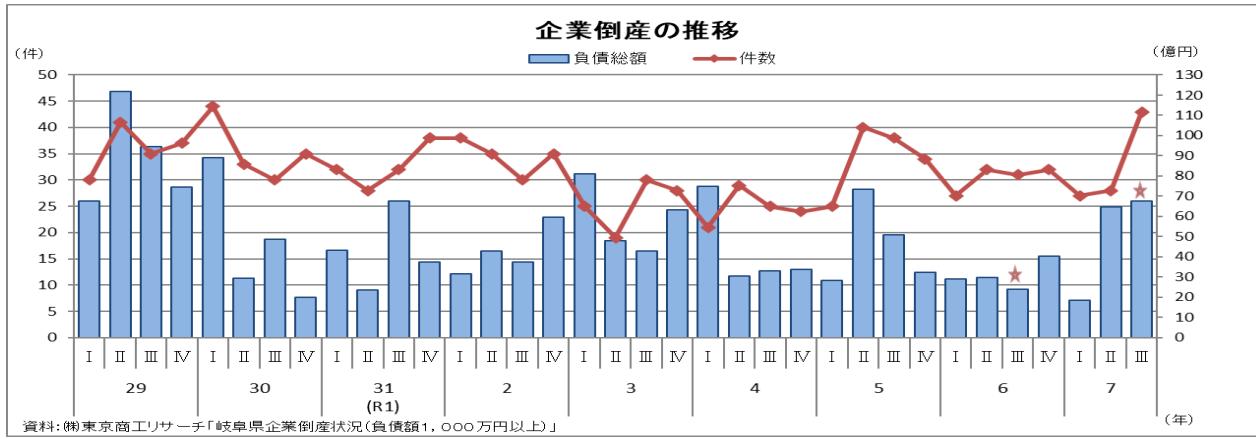
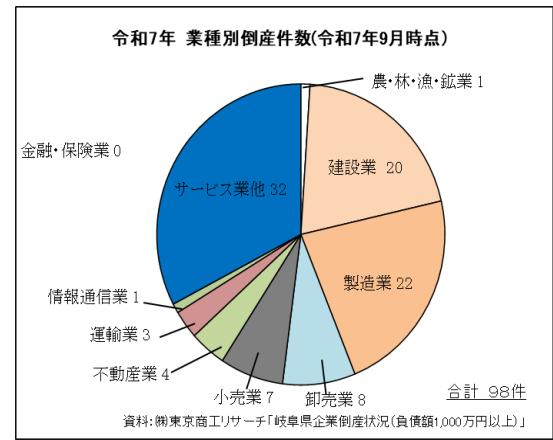
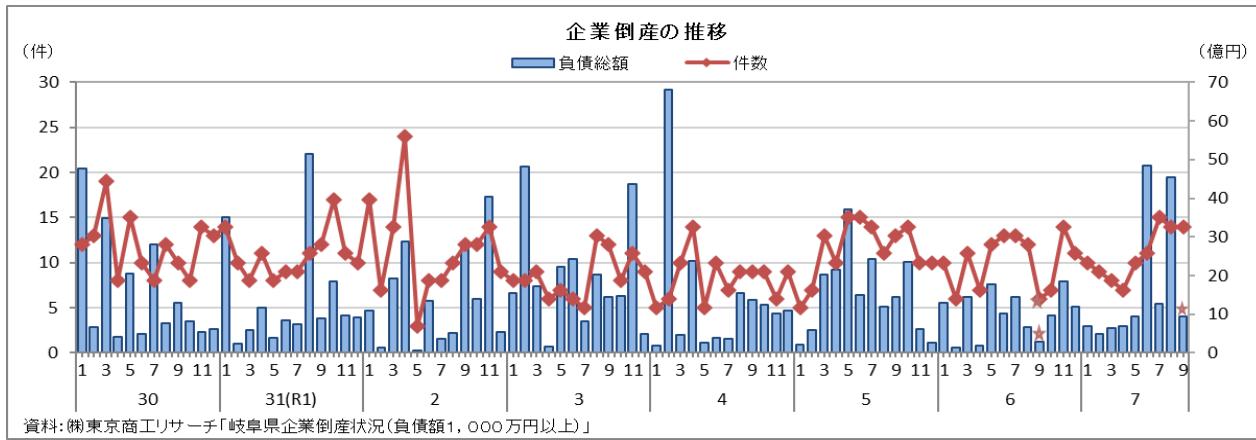
資金繰りー2

- 10-12月期の資金繰りDI見通しは▲14.4で、前期比0.3ポイント上昇となった。同借入難易感DI見通しは▲0.9で、前期比▲1.9ポイントとなった。
- 7-9月期の主要資金別新規制度融資実績は、経済変動対策資金で前年同期比4.8%増加した。一方、返済ゆったり資金では同▲35.7%、元気企業育成資金で同▲8.9%と2期連続で減少となった。
- 9月のセーフティネット5号保証承諾実績は、件数が4件で前年同月比▲55.6%、金額125百万円で同▲54.7%となった。
- 9月の事故報告(保証協会付融資3ヶ月以上延滞)状況は、件数は81件で前年同月▲19.0%、金額は810百万円で同▲28.2%となった。



倒 産

- 9月単月の倒産件数は14件、負債総額は前月比▲3,589百万円の946百万円となった。
- 令和6年9月は負債総額1億円以上の倒産が1件発生したのに対して、令和7年9月は同倒産1件となった。負債総額は前年同月比216百万円増加となった。



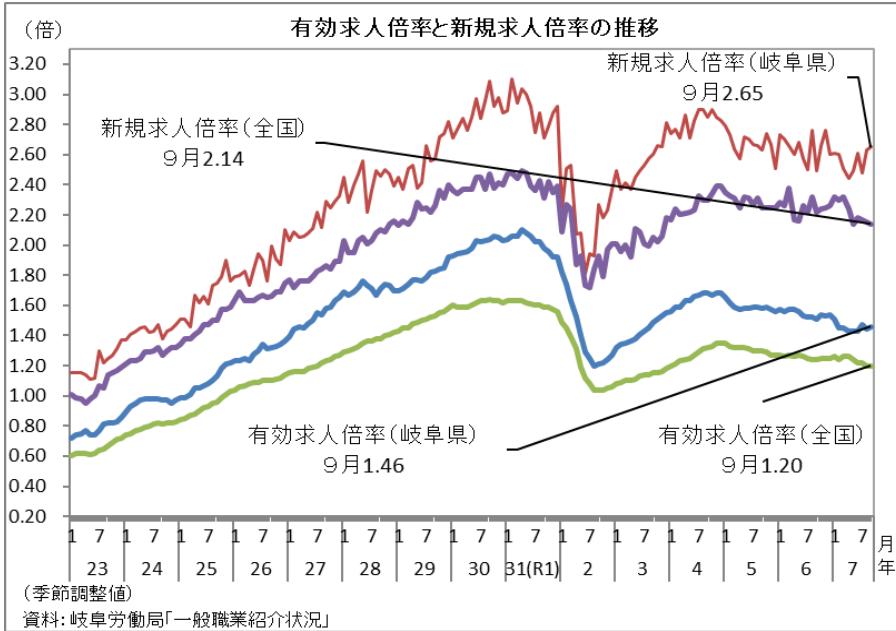
専門機関の分析(東京商エリサーチ・11月21日時点)

- ◆ 2025年10月21日に高市新内閣が発足し、11月21日には20兆円を超える規模の経済対策を閣議決定した。昨年度を超える規模の経済対策を取りまとめ、強い経済の構築へ積極財政姿勢を示した形だが、市場では財政悪化などを懸念して金利が上昇、為替市場では円安傾向が続いており企業経営への影響も大きい。物価対策としての賃上げや「年収の壁」引き上げは、体力の乏しい企業に資金面で重くのしかかり、賃上げをしなければ人手不足を解消できないといった負のスパイラルに陥りかねない。

雇用

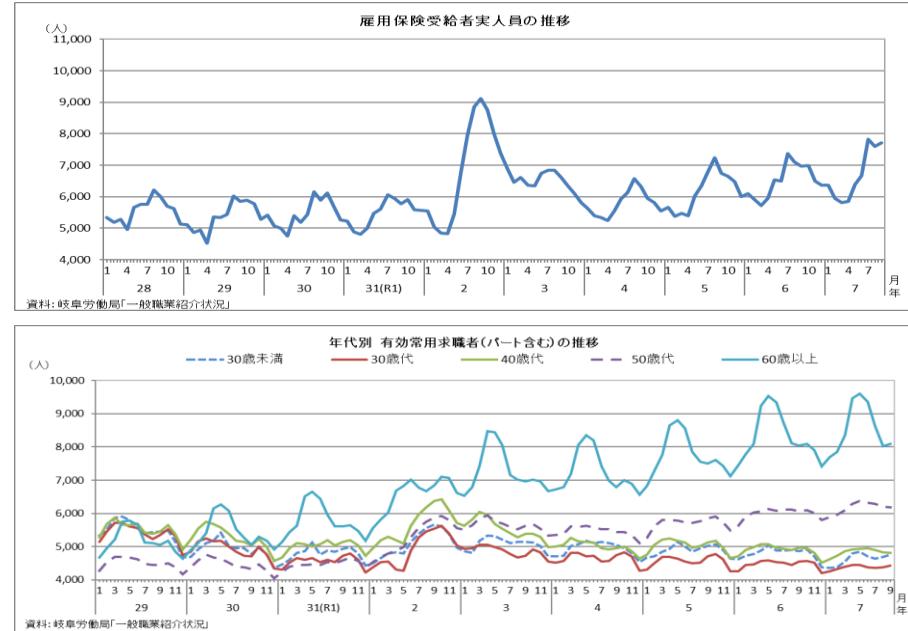
○9月の有効求人倍率は1.46倍と、前月比0.02ポイント上昇となった。

○9月の新規求人倍率は2.65倍と、前月比0.02ポイント上昇となった。



○9月の雇用保険受給者人員は、前月比
1.5%増加となった。

○有効常用求職者は、50歳代では31ヶ月連續で上昇、60歳代では3ヶ月連續で下降した。



現場の動き

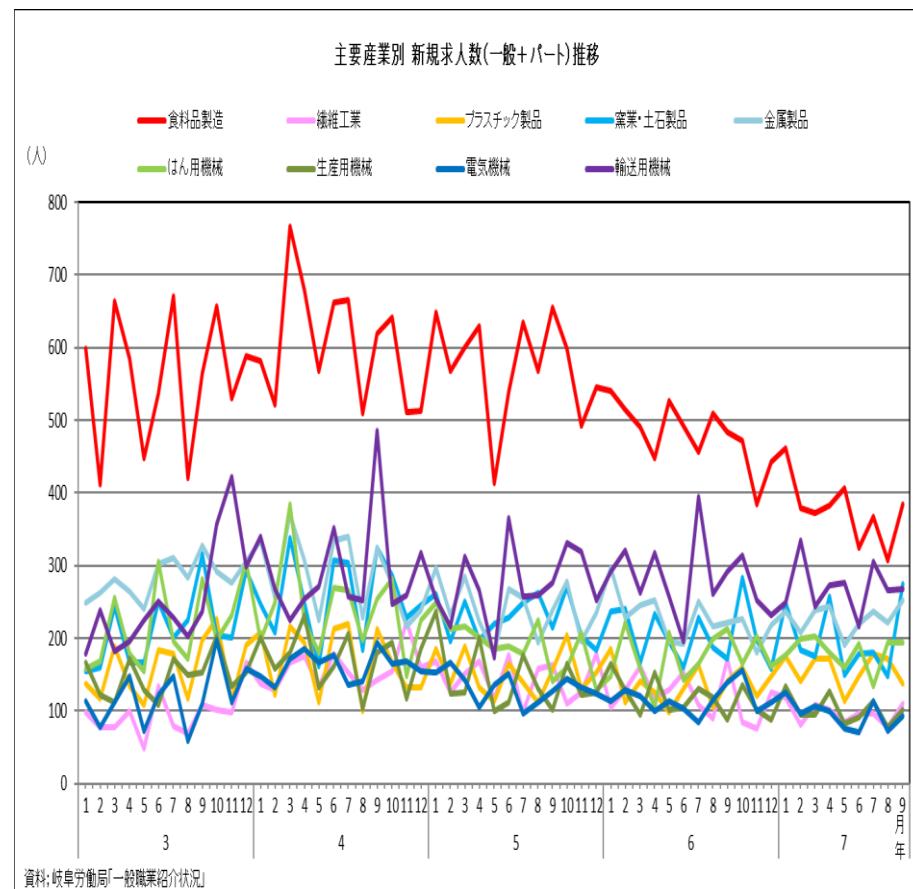
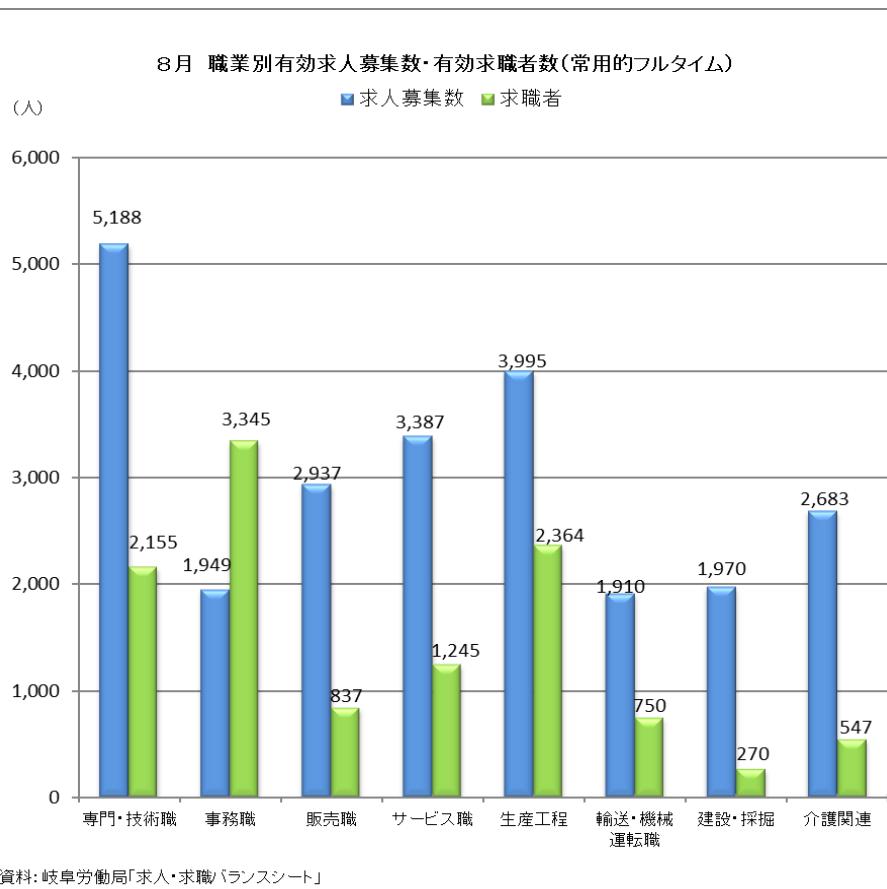
- ◆ 今年の最低賃金改定については現状の賃金体系でクリアできるため特に問題はないが、このままのペースで上がり続けると早々に限界が来る。(輸送用機械)
 - ◆ 継続して求人募集を行っているものの、受注状況を考慮した場合、人手不足という訳ではないので、現在の人員体制で推移している状況。(輸送用機械)
 - ◆ 27年卒の新卒採用について、そろそろ準備をしなければいけない時期であるものの、コストをかけても新卒者が採れるかどうか分からぬため、対応に迷っている。(輸送用機械)
 - ◆ 定年以降の継続雇用従業員には、1日の労働時間、1ヶ月の就業日数を本人の希望を聞きながら柔軟に対応している。(木工)

雇用(職業別)

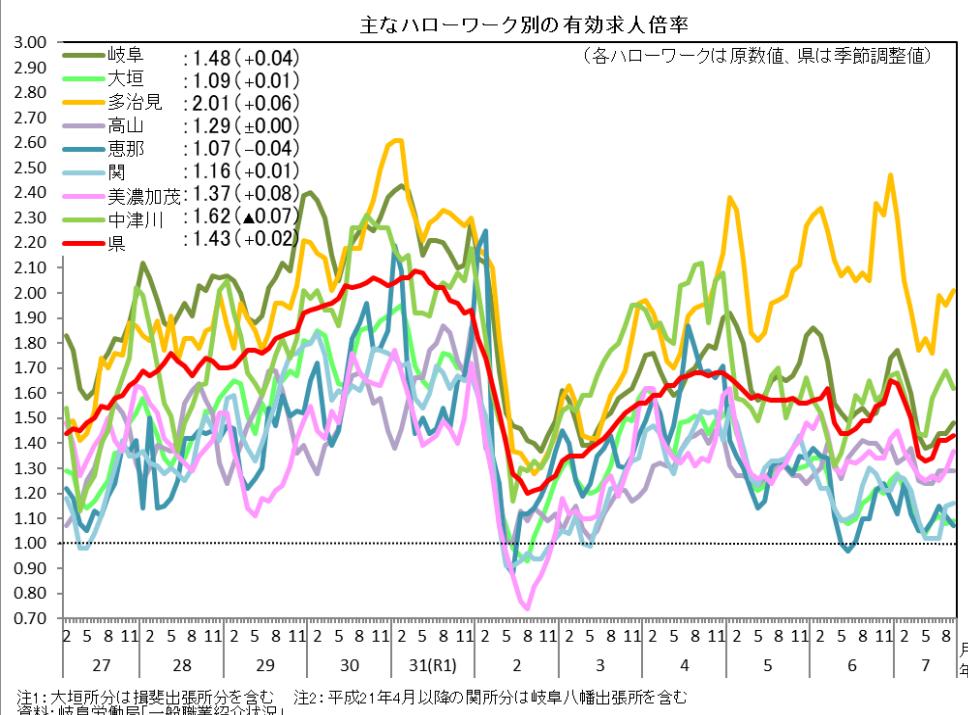
○有効求人倍率は、建設・採掘で7.30倍、介護関連で4.90倍、販売職で3.51倍、サービス職で2.72倍など、引き続き人手不足の状況は続いている。

○一方で、事務職の有効求人倍率は0.58倍に留まり、求職者のニーズと、求人側のニーズのミスマッチが続いている。

○9月の主要産業別の新規求人数は、窯業・土石で前年同月比60.8%、生産用機械で同17.2%、金属製品で同13.5%増加した一方で、繊維工業で同▲35.7%、電気機械で同▲33.8%、食料品製造で同▲20.7%、はん用で同▲8.9%、輸送用機械で同▲8.2%、プラスチック製品で同▲2.1%となった。



雇用(地域別)



○9月の主なハローワーク別の有効求人倍率は、岐阜、大垣、多治見、閑、美濃加茂で前月比増加となった。

現場の動き(前月比)

<ハローワーク岐阜>

- ◆求人者数は横ばい、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク大垣>

- ◆求人者数は増加、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

<ハローワーク多治見>

- ◆求人者数、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

<ハローワーク高山>

- ◆求人者数、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数は横ばい。

<ハローワーク恵那>

- ◆求人者数は減少、求職者数はやや増加。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク閑>

- ◆求人者数增加、求職者数はやや増加。
- ◆雇用保険受給者数はやや増加。

<ハローワーク美濃加茂>

- ◆求人者数、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク中津川>

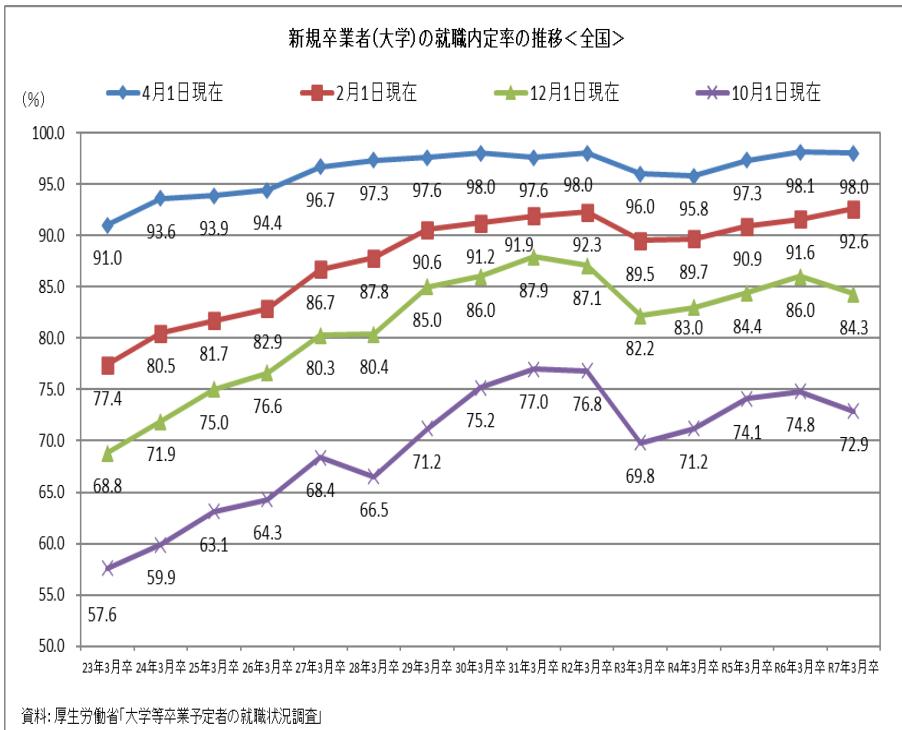
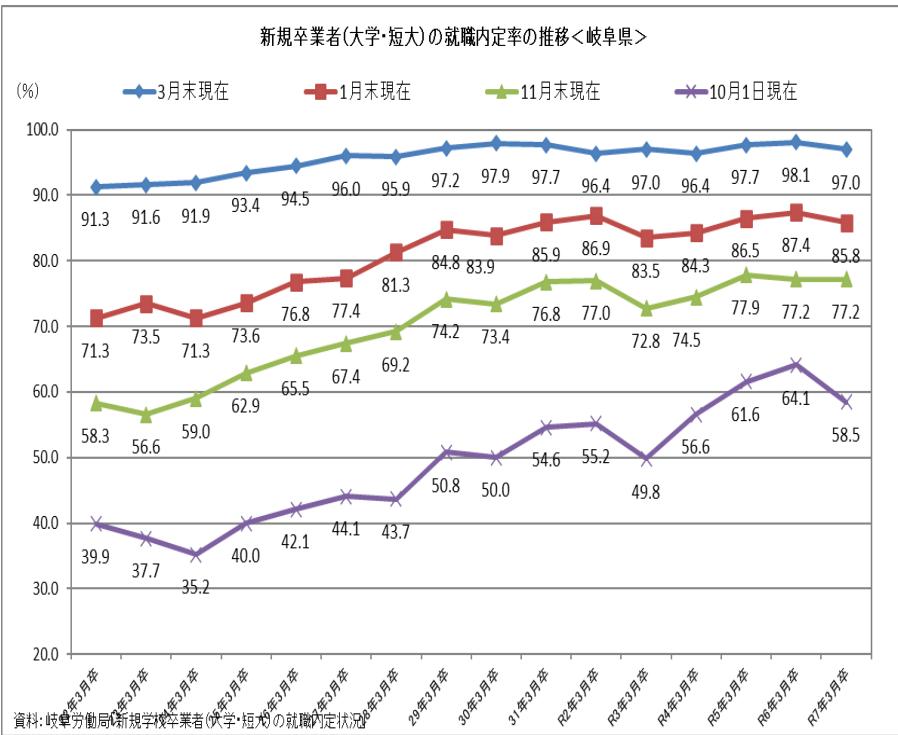
- ◆求人者数は増加、求職者数は減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

<窓口の様子>※前月比

- ◆閑でやや混雑している、岐阜、大垣、多治見、高山、美濃加茂、中津川で同じくらい、恵那で空いている状況。

雇用(大学・短大新卒者の就職)

- 岐阜県の令和7年3月末現在の大学・短大卒業者(令和7年3月卒業)の就職内定率は、97.0%であり、前年同時点と比べ0.4ポイント上昇した。
- 全国の令和7年3月1日現在の大学卒業者(令和7年3月卒業)内定率は98.0%であり、前年同時点と比べ1.5ポイント上昇した。



現場の動き(2026卒、2027卒の動きなど)

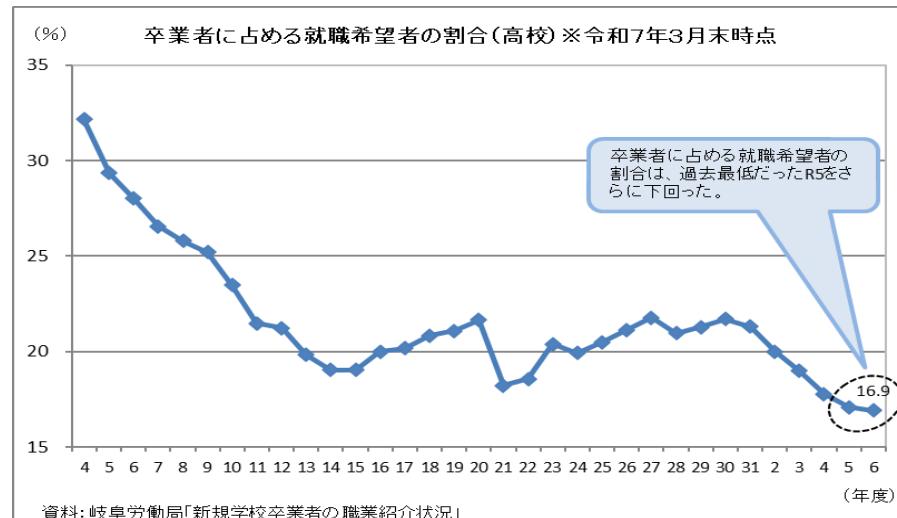
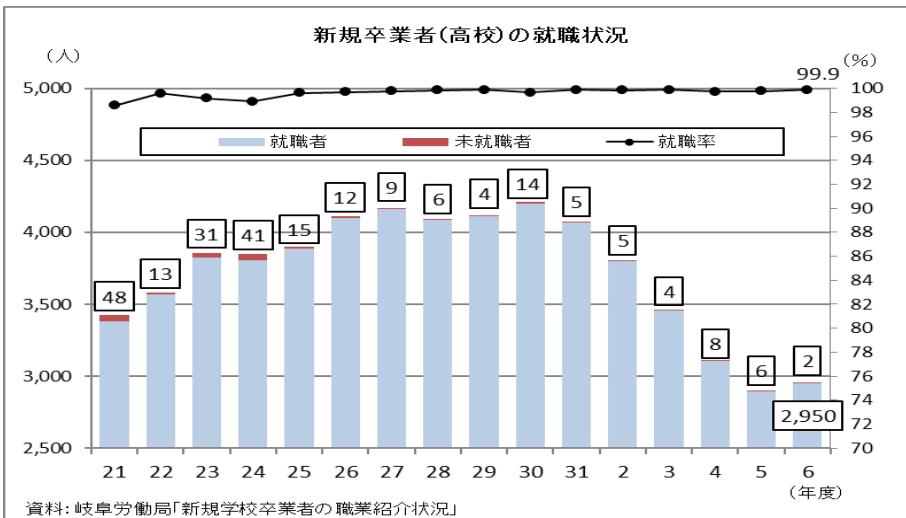
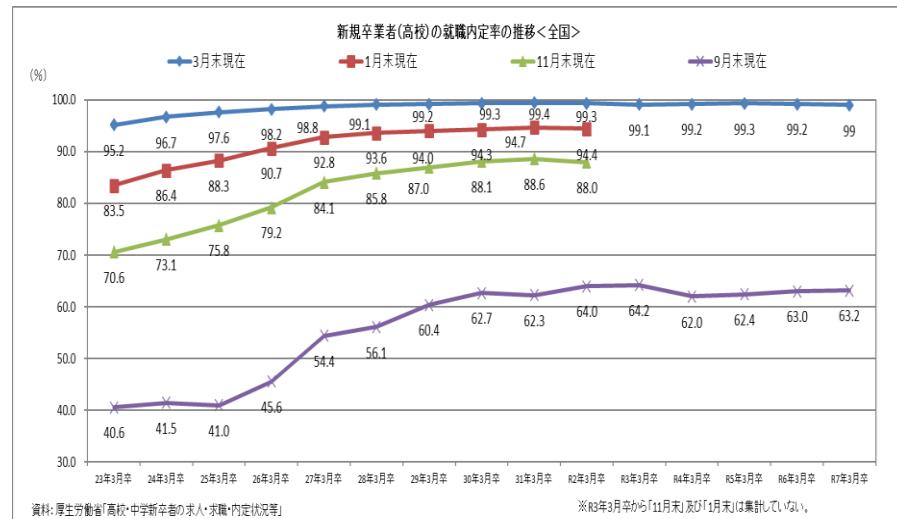
<大学へのヒアリング>

- ◆ 26年卒からの相談は減少している。内定率は80%超で先月と大きく変わりない。
- ◆ 27年卒からの相談はかなり増加してきた。9月に内定を貰った学生は自信をつけ、さらに意欲的に就活に取組んでいる。

(以上、岐阜・愛知県内大学)

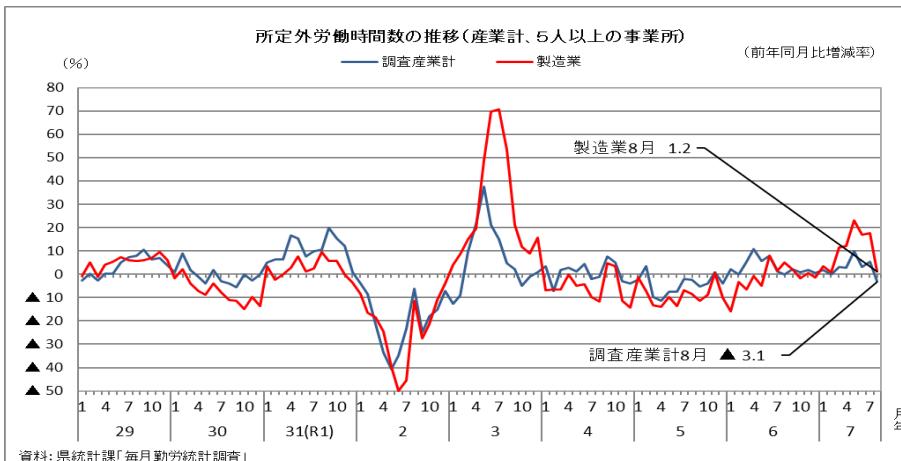
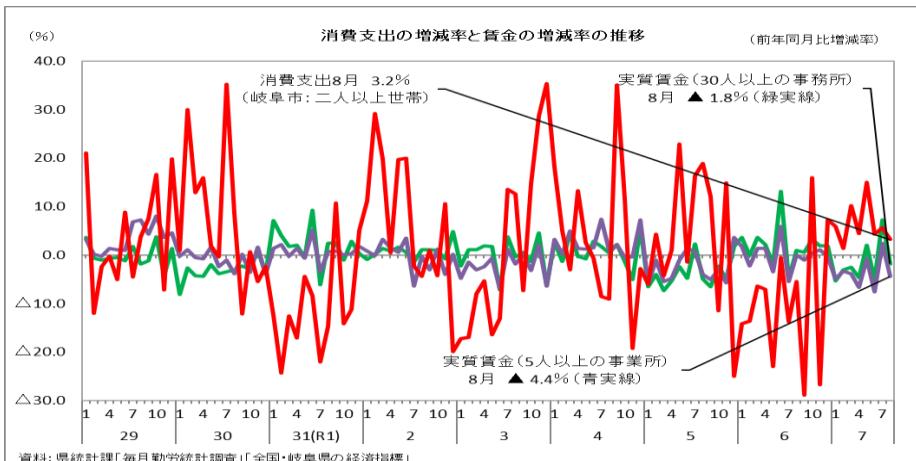
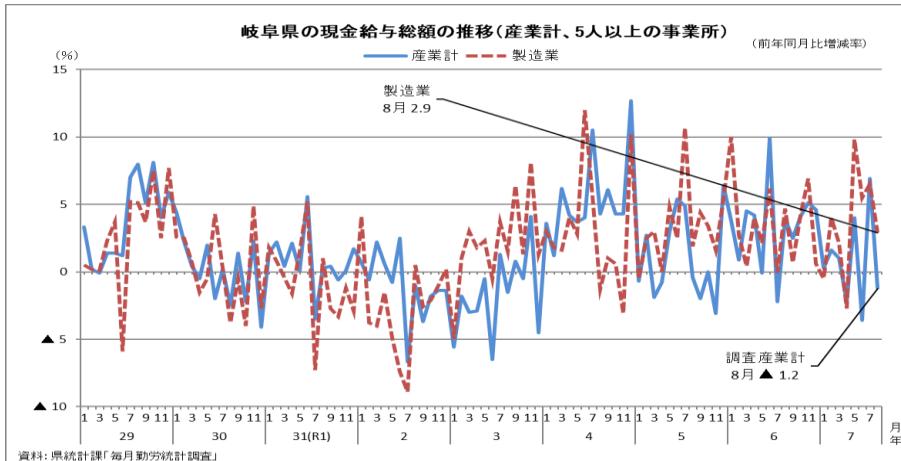
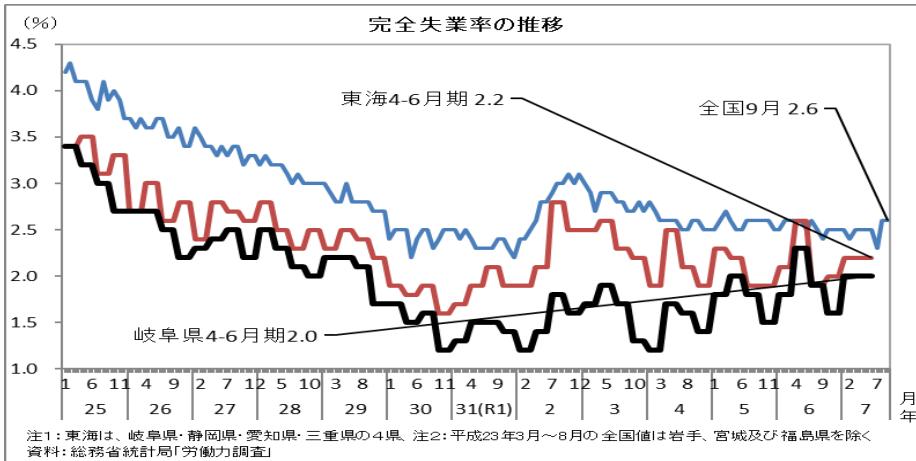
雇用(高校新卒者の就職)

- 岐阜県の令和7年9月末現在の高校卒業者(令和8年3月卒業)の就職内定率は66.3%であり、前年同時点と比べ0.4ポイント上昇した。
- 全国の令和7年3月末時点の高校卒業者(令和7年3月卒業)の就職内定率は99.0%であり、前年同時点と比べ▲0.2ポイントとなった。



雇用(完全失業率等)

- 全国の9月の完全失業率は2.6%で前月比同率となった。岐阜県の4-6月期の平均は2.0%で前期比同率となった。
- 8月の現金給与総額は、調査産業計で前年同月比▲1.2%、製造業で同2.9%増加となった。
- 8月の実質賃金増減率は、30人以上の事業所で前年同月比▲1.8%、5人以上で▲4.4%となつた。8月の消費支出については同3.2%増加となった。
- 8月の所定外労働時間数は前年同月比で▲3.1%となった。



<経済・雇用の現状（総括）>

- 製造業は、8月の鉱工業生産指数は前月比▲3.7%となった。ヒアリングでは、自動車メーカーへの出荷以外にも市販製品の売れ行きが好調との声や中国向けの出荷について、スポットでIT関連部品の受注があり、一時的に好転したとの声が聞かれる一方で、EVが停滞しているため、ハイブリッドや従来型車種の生産などに向けて経営資源を集中しなければいけないとの声が聞かれた。
- 地場産業は、8月の鉱工業生産指数は木材・木製品、家具、パルプ・紙で上昇した。ヒアリングでは、新商品の包丁が好調であり、昨年と比較して売上は1割程度上昇しているとの声が聞かれる一方で、建築資材の高騰によりタイルの発注が減少しており、景況感は低調が続いているとの声や仕入れ先のメーカーの倒産や廃業が多く、廃盤の商品の代わりの品を探すのに苦労しているとの声が聞かれた。
- 設備投資は、9月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比10.0%増加となった。ヒアリングでは、観光客のニーズに応えるため、既存の設備を新しいものに入れ替えるなど、宿泊業で活発に行われているとの声が聞かれた。
- 個人消費は、9月の販売額は、全体で前年同月比1.9%増加となった。ヒアリングでは、シネコンの好調継続に加えて、各販促施策やイベントの連続実施により売上・客数共に大幅伸長との声が聞かれる一方で、季節商品をこの秋に値上げしたが、やはり値上げしたものが大きく売上を落とす傾向が顕著に出たため、今後の値上げがしにくい雰囲気との声が聞かれた。
- 観光は、前年同月と比較しプラスとなるなど、回復傾向にあり、コロナ前の約9割まで戻ってきている。宿泊施設からのヒアリングでは、人手不足に苦慮しているとの声が多くあり、外国人人材を活用する施設もあった。
- 企業の資金繰りは、9月の制度融資実績は金額で14ヶ月連続で減少となった。金利上昇局面であり、今後も上昇していくことは変わらず、あとは引き上げのタイミングの問題のため、引き続き政策金利の動向を注視していくとの声が聞かれた。
- 雇用面は、9月の有効求人倍率は1.46倍と前月比0.02ポイント上昇となった。ヒアリングでは、採用面については、27年卒の新卒採用について、そろそろ準備をしなければいけない時期であるものの、コストをかけても新卒者が採れるかどうか分からぬいため、対応に迷っているとの声が聞かれた。待遇面については、今年の最低賃金改定については現状の賃金体系でクリアできるため特に問題はないが、このままのペースで上がり続けると早々に限界が来るとの声が聞かれた。